

## 四国森林・林業研究発表会を開催

現場で取り組んだ業務・成果を発表

一月二〇日（水）、四国森林管理局研修室において、「令和二年度四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

今回で、六八回目を迎えた発表会は、コロナ禍の中での開催となりました。そのため、発表は対面方式と一部Web方式により行い、発表の様様については、ライブにより配信しました。

開会にあたり、石垣局長から挨拶を受けた後、発表に移りました。

発表課題は、局署等一〇課題、試験研究機関等（特別発表）四課題の一四課題でした。

審査の結果、**最優秀賞（以下三部門）**

・森林技術部門「UAVを活用した林分材積調査の実施について」（四万十、安芸森林管理署）

・森林ふれあい部門「ふるさとと自然を育む大栃の治山く先人達の功績から学ぶ（高知中部森林管理署）」

・森林保全部門「安政の森における多様な森林づくりの取組について」（愛媛森林管理署）

・**日本森林技術協会理事長賞**

「ICT機器を活用した林分調査と従来の林分調査との比較検証及び技術の普及について」（香川森林管理事務所）

・**日本森林林業振興会会長賞**

「地域と共に自然環境に配慮した治山事業について」（四万十森林管理署）

なお、発表会の詳細につきましては、四国森林管理局広報誌「グリーン四国二月号」に掲載します。

## 樹木観察 「クロモジ」

クロモジ（写真）と聞いて、クスノキ科の落葉低木を思い浮かべる人はかなりの樹木通。



むしろ、樹皮のついた高級ようじの「黒文字」が一般的。

お茶席で出される和菓子に黒っぽい樹皮のついたようじが添えられていたら、それはクロモジの枝を削って作られたもの。

クロモジがようじの材料に好んで用いられる理由は、主に樹皮に含まれている芳香に加え、緻密かつ均質で削りやすく、割れにくい材質が最適。樹液が増える冬から春の芽吹き前が香りも高く採取の適期。花は芽吹きとほぼ同時に薄黄色の小さな花が若葉の基部に球状に集まって咲く。

森の花を楽しむ101のヒント  
（日本森林技術協会）

## 編集後記

今年も、はや2月、寒さと暖かさが混じる中で梅の花の便りも。体調に留意のうえ、・マスク・手洗いの励行にも心がけましょう。お互いに。



## 「エアざし」って 土を使わずミスト散水で さし穂を発根させる手法

九州地域では、古くからスギさし木による造林が行われている。さし木苗は生長性や材質など優れた品種の特性を継承し、品質管理型の林業を実現できる苗木の生産手法。スギさし木によるコンテナ苗生産では、多くの場合、さし穂を野外の苗畑へさし付ける露地さし、育苗箱にさし付ける箱ざしをした後、発根した頃を見計らってさし穂を掘り取りコンテナへ移植。

林木育種センター九州育種場等は、スギさし穂を土にさし付けずに空気中で発根する現象を確認。

エアざしは、網などの支持資材にさし穂を立てかけ、温室などの施設内で定期的にミスト散水しながら静置することで発根を誘導する手法。

エアざしは、苗畑の除草等の維持管理、育苗苗の土の入れ替え等が省力化。発根状況が目視で把握でき、確実に苗木になるさし穂のみをコンテナへ移植でき、さし木苗の生産の効率化に。

今年度、「用土を用いない空中さし木法によるスギさし木コンテナ苗生産マニュアル」公開する予定。

また、コウヨウザン等でもエアざしで発根することが示されている。

森林技術 2021.1月号（技術者コーナー）より